



「一人一人を大切にする学校」

校長 野口 直也

早いもので、この北ノ台小学校に来てから3度目の春となりました。

学校の主役は、言うまでもなく、子どもたちです。その一人一人は、育った環境も違えば、個性も全く違います。一人一人が「自分は誰からも大切にされている」と感じ、安心して学び合うことができるようにしていくために、今年度も引き続き「子どもたち一人一人を大切にする学校」を目指してまいります。

4月から、調布市内の小学校では7校目となる特別支援学級（知的固定級）の「たんぼぼ学級」がスタートしました。この学級は、少人数で一人一人に合った指導が受けられる学級です。

学びやすい方法や場所は、人によって違いがあります。たくさん的人数の中ではうまくできないことでも、より落ち着いた静かな場所や少ない人数であれば、できる子どもたちもいます。それが、たんぼぼ学級です。様々な学年や学級との交流も実施しながら、教育活動を進めてまいります。

たんぼぼは、本校の校章や校歌にも取り入れられています。北ノ台小学校の児童が、強く、たくましく成長するように、という願いを込めて、校章に採り入れたのだそうです。そこから、「たんぼぼ学級」という名前を付けさせていただきました。たんぼぼの花は、私たちが一つだと思っているかたまりは、実は200個もの一つ一つの花が集まっているのだそうです。花びらだと思っていた部分は、一つの花なのです。そして、たんぼぼの種は、最後には綿毛となって飛んで行きます。同じように、北ノ台小学校の子どもたち一人一人も、将来しっかりと自立できるように、学校生活を通して様々な力を身に付けられるようにしていきます。

本校の自慢は、「子供たちのあいさつが素晴らしい」ということです。登校時に校門に立っていると、みんな元気に「おはようございます」とあいさつをしてくれます。礼儀正しくきちんと立ち止まってあいさつをしてくれる子もいます。廊下ですれ違う時も、教室を見て回っている時もそうです。これだけあいさつの習慣がきちんと身に付いているということは、北小の伝統であると同時に、ご家庭での教育がしっかりと行き届いているおかげであると感じています。

二つ目の自慢は、「地域の方々の北小愛がすばらしい」ということです。開放委員会、健全育成、まちづくりネットワーク、そして地域学校協働本部の皆さんには、常に学校を支えていただいています。登校時の見守り、授業や校外学習などの学習支援、学校農園や花壇の手入れ、樹木剪定などの環境整備、夏祭りの開催、乗馬体験やプラネタリウム体験授業、健全ソフトボールの指導など、学校で地域の方々の姿を見ない日は一日もありません。来年度から本校は正式にコミュニティ・スクールに指定される予定ですが、ある意味ではその先駆的な存在であったのだと思います。自由広場や神代植物公園、深大寺などの地域素材を最大限に生かしながら、「学校は地域のために」「地域は学校のために」お互いが支え合って、力を合わせて、みんなの自己実現を叶えていくことが理想です。

令和6年度も、引き続き北ノ台小学校へのご理解とご支援を、よろしくお願いいたします。